

経済社会学会第42回大会報告要旨  
新しい経済社会学：「埋め込み」概念を中心にして

渡辺 深（上智大学）

□ 本報告の目的

このパネルセッションの目的は、新しい経済社会学の枠組みを活用した実証研究の結果を報告することである。そこで、本報告では、グラノヴェッターの提唱する埋め込み（embeddedness）概念を中心に、新しい経済社会学の概念枠組を紹介したい。

（1）新しい経済社会学（New Economic Sociology）

新しい経済社会学とは、1980年代に社会学の専門領域として復活した経済社会学であり、グラノヴェッターが「新しい経済社会学」と称し、経済と社会は有機的に相互に結びついており、あたかもそれらが別の現象であるかのように分析することはできないと主張する視点である。新しい経済社会学は、それ以前の経済社会学と比較して、経済現象の周辺ではなく中核的な領域（製品、資本、労働に関するすべての市場構造と市場過程、生産、分配、交換、消費、価格、貨幣、契約など）を扱うものである。主要な想定として、経済交換において個人は個々ばらばらの原子のように行動しないし、他の人々を同一のやり方で扱うこともしない、さらに、経済行為は経済的利害だけによって動機づけられるのではなく、「是認、地位、社交、勢力」などの社会的動機と密接に関係すると論じる。

グラノヴェッターが1985年の論文『経済行為と社会構造：埋め込みの問題』を発表し、その年の米国社会学会で「新しい経済社会学」と命名し、それが実質的な「新しい経済社会学」樹立の宣言となった。グラノヴェッターは、ポランニーの埋め込み概念を「新しい経済社会学」の中心概念として復活させ、経済行為が社会構造に埋め込まれていると論じる。

（2）ポランニーの「埋め込み」概念

ポランニーは、経済は社会に「埋め込まれている」と概念化する。埋め込み概念はポランニーが最初に紹介し、「人間の経済は、経済的な制度と非経済的な制度に埋め込まれ、編み込まれているのである。非経済的な制度を含めることが肝要である」と指摘した。このように、ポランニーの埋め込み概念は、経済が広範な制度的構造の一部であり、経済活動は社会構造に埋め込まれていることを意味する。重要な点は、経済関係の基礎には社会的つながりの確認、信頼、連帯が不可欠であり、ネットワーク、価値、道徳性、伝統、義務、勢力関係を通じて経済関係が成立することである。

ポランニーは、経済の社会関係への埋め込みを経済学が無視し、経済交換を常に市場交換と考えるのは間違いであると主張した。その理由は、市場交換は、経済行為の一つのタイプにすぎず、特に19世紀のヨーロッパの自己調整的な市場社会になって初めて主流の経済行為になったからであり、それ以前の非市場社会では、伝統にもとづく親族や友人による「互酬性」、あるいは、政治的・共同体的権威による「再配分」が主要なタイプの経済行為であり、経済は社会関係に埋め込まれていると論じた。非市場社会では、宗教、政治、その他の諸制度の影響を大きく受けるので、需要供給の果たす役割は小さいと論じた。

（3）グラノヴェッターによる「埋め込み」概念の再解釈

ポランニーの埋め込み概念は、グラノヴェッターの再解釈を通じて、「新しい経済社会学」の中心概念として復活した。グラノヴェッターは、埋め込み概念が非市場社会だけに該当するというポランニーの議論を修正し、市場社会の経済分析にもこの概念が適用可能であり、実際の経済生活では、社会的影響と需要供給の影響が混在すると主張する。

経済社会学は、経済学において「社会構造が無視されていること」を批判する。経済学

では、経済行為者たちは、彼らのつながりから独立し、相互に分離して意思決定を行い、社会関係はスムーズな経済行為を阻害する周辺的な「摩擦」と想定される。人間行為は相互に分離し、原子化され、社会的な影響を受けない過小社会化された存在となる。

反対に、過剰社会化された行為は、人々が習慣や規範を内面化し、それらに完全に支配される行為をいう。グラノヴェターは、過小社会化と過剰社会化のどちらも行為者が既存の具体的な社会関係によって影響されない—原子化されている—という点では共通するものであり、それは行為者が置かれている具体的な社会構造を無視する観念であると批判する。実際には、どんな経済行為も抽象的な空間で生起するわけではないので、経済行為の結果に対する広範な社会構造の影響を無視することはできない。そこで、グラノヴェターは、「原子化」の反対概念として「埋め込み」概念を導入し、過小社会化でも過剰社会化でもなく、行為者が置かれている具体的な社会構造を分析しようと提言する。

#### (4) 埋め込み概念の精緻化—4つのタイプの埋め込み—

「埋め込み」概念は経済社会学において頻繁に引用されるようになった。しかし、埋め込み概念は、「経済行為が社会構造に埋め込まれている」という一般的な方向づけを提供するだけなので、その抽象性、あいまいさが問題となった。埋め込み概念のあいまいさに対処するために、その概念の明確な概念化あるいは操作化をめざして埋め込み概念の精緻化が行われてきた。

ディマジオとズーキンは、埋め込みとは、認知、文化、社会構造、政治制度に対する経済行為の随伴的性質であると広義に定義し、埋め込みのタイプを「認知的」「文化的」「構造的」「政治的」の4つに分類した。

まず、認知的埋め込みは、我々の心理的、認知的な過程が経済合理性を制限することを意味する。情報の不確実性や複雑性を処理する我々の能力には限界があるので、特定の状況に関するすべての情報を処理できない。そこで、情報処理を簡単に済ますために、情報は、選別され、カテゴリー化され、分類される。このような分類は認知的な偏りを生み出す。このように、我々の社会的世界は、客観的な事実として存在するというよりも、主観的に認知（認識）された存在である。

文化的埋め込みについては、主に、文化社会学者が経済に対する文化のインパクトを研究してきた。ディマジオによれば、文化は、「共有された集合的理解」であり、具体的には、信念、態度、規範、価値、論理、(何を、誰と、どのような方法で交換するかという)役割関係、スクリプト(台本)、あるいは、自明な想定、聖と俗、内部と外部という分類システムなどである。経済行為は、特定の集団の価値観やライフスタイルなどの文化的要因に大きく影響される。たとえば、ゼライザーによる米国の生命保険業の研究では、生命を商品にする際に強固な文化的抵抗に遭遇し、それに対して生命保険業が講じた対策が分析された。また、アボラフィアは金融市場を研究し、市場の参加者の間に「相互的理解」が存在し、市場は共有された「意味のシステム」に埋め込まれていることを明らかにし、金融市場は文化現象として理解されると論じた。

構造的埋め込みは、経済行為が社会関係のネットワークの中で起こることを意味し、グラノヴェターによって提唱されたものである。グラノヴェターは、埋め込みを「経済行為は具体的な社会関係—対人関係のネットワーク—に埋め込まれている」と定義し、経済におけるネットワークの役割を重視する。

政治的埋め込みとは、経済行為において勢力が果たす役割に注目し、経済制度や経済に関する意思決定が経済行為者の勢力闘争によって形成され、影響されることを意味する。政治的埋め込みについては、組織社会学、比較社会学、歴史社会学の研究者が分析してきた。フリグスタインやドビンなどの経済社会学者は、「経済制度がなぜ、いかにして社会的

に形成されてくるのか」を歴史分析によって明らかにした。これらの研究者が強調するのは、経済現象が形成される過程において政治、国家、勢力闘争が果たす役割である。

上記の経済制度の分析におけるグラノヴェッターの概念図式には、キーとなる行為者、社会構造（文化、政治、ネットワーク）、資源動員、経路依存、ロックイン、カップリング、デカップリングなどの概念が活用された。その分析では、ネットワークだけでなく、他の様々な要因が相互に作用するモデルが構築された。このように、経済制度の理解には社会過程と歴史過程の分析が不可欠である。

表 1 経済社会学と経済学の比較

	経済社会学	経済学
①分析単位	集合体	個人
②行為者の概念	行為者は相互に関係を持つ 行為者はその関係に影響される 行為者は集団の一部である	行為者は相互に関係を持たない 行為者は関係に影響されない 原子化された行為者
③経済行為の動機	経済的動機だけでなく、 社交、是認、地位、社会的影響、 勢力などの非経済的動機を重視 変数としての合理性	経済的動機 利潤、収入、富などを最大化 効用の最大化 想定としての合理性
④経済行為に 対する制約	経済行為は、資源の需給関係と 社会構造（ネットワークと文化） によって制約される	経済行為は、嗜好と、資源の 需給関係によって制約される
⑤社会と経済の 関係	経済は社会の不可欠な部分である 社会は常に基本的な準拠点である 経済は社会に埋め込まれている	市場と経済が基本的な準拠点 社会は「与件」である

注：この表は、以下の文献を参考にして作成したものである

Smelser, Neil J. and Richard Swedberg. 1994. "Sociological Perspective on the Economy." in Smelser and Swedberg, *Handbook of Economic Sociology*, p.4, Table 1. Russell Sage Foundation and Princeton University Press.

渡辺 深、2002、『経済社会学のすすめ』八千代出版

参考文献：

Abolafia, Mitchel Y., 1996, *Making Markets*. Harvard University Press.

DiMaggio, Paul, 1990, "Cultural Aspects of Economic Action and Organization." In *Beyond the Marketplace*, edited by R. Frieland and A. F. Robertson. Aldine de Gruyter.

DiMaggio, Paul and Sharon Zukin, 1990, "Introduction." In *Structures of Capital*, by S. Zukin and P. DiMaggio. Cambridge University Press.

- Dobbin, Frank, 1994, *Forging Industrial Policy*. Cambridge University Press.
- Fligstein, Neil, 1990, *The Transformation of Corporate Control*. Harvard University Press.
- Granovetter, Mark, 1985, "Economic Action and Social Structure: The Problem of Embeddedness." *American Journal of Sociology* 91:481-580. (1998. 「経済行為と社会構造」『転職』マーク・グラノヴェッター著、渡辺深訳、ミネルヴァ書房)
- Polanyi, Karl, 1957, "The Economy as Instituted Process." In *Trade and Market in the Early Empire*. The Free Press. (1975. 「制度化された過程としての経済」『経済文明史』、カール・ポランニー著、玉野井芳郎、平野健一郎編訳、日本経済新聞社)
- Zelizer, Viviana, 1983, *Morals and Markets*. Transaction Press. (1994. 『モラルとマーケット』ヴィヴィアナ・ゼライザー著、田村祐一郎訳、千倉書房)
- 渡辺 深, 2002, 『経済社会学のすすめ』八千代出版
- 渡辺 深, 2006, 「新しい経済社会学—グラノヴェッターの埋め込み概念を中心にして」, 『理論社会学の可能性』富永健一編、新曜社

© 渡辺深